

名家連ニュース

令和元年5月2日(木)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 610号

◆◇ 2019年4月の家族ピア相談事業集計報告 ◇◆

◀相談件数▶

	4月
電話相談	230
面会相談	139
合計	369

◀相談人数▶

	4月
電話相談	54
面会相談	24
合計	78

◀支援内容▶

	4月
年金受給者	4
手帳受給者	0
家族会入会	1



◀相談内容▶

相談項目 相談形態	家族会について	相談 制度 利用に 関する	医療に 関する 相談	病気や 障害への 対応 相談	家族 関係に 関する 相談	生活に 関する 相談	就労に 関する 相談	社会 参加等 に 関する 相談	その他	合計
電話相談	6	34	46	49	17	44	18	6	10	230
面会相談	10	21	21	20	18	22	11	12	4	139
合計	16	55	67	69	35	66	29	18	14	369

◀相談者続柄▶

続柄	祖父母	父親	母親	夫	妻	兄弟	子供	その他	合計
人数	1	16	34	1	5	2	1	18	78

戦争・医療・倫理

—731部隊とナチスの障害者虐殺から考える—

基調講演

藤井 克徳 氏 (日本障害者協議会代表、きょうされん専務理事)

講演テーマ：「ナチス・T4作戦の跡地を訪ねて」

パネルディスカッション

パネリスト 藤井 克徳 氏 (基調講演者)

近藤 昭二 氏 (ジャーナリスト)

櫻村 愛子 氏 (愛知大学文学部教授、社会学者、NPO 沖縄戦記録・継承の会「うむい」理事)

モデレーター 香山 リカ 氏 (医師、立教大学現代心理学部教授、「戦争と医の倫理」の検証を進める会)

会場は満席!! 198名参加

4月29日(月・祝)表題の講演とシンポジウムがウインクあいちで開催。

プレ企画は731部隊関連のDVD上映。前半は藤井克徳氏(日本障害者協会代表)「ナチス・T4作戦の跡地を訪ねて」の基調講演、後半はパネルディスカッション。精神科医の香山リカ氏(進める会)がモデレーターを務めました。主催：戦争と医の倫理の検証を進める会(事務局/全国保険医団体連合会)、連絡先/愛知県保険医協会。名家連から副会長/末次、事務局/堀場が参加しました。

↓ 次ページへ続く「731部隊関連のDVD」と「藤井克徳氏の講演」の概要を紹介いたします

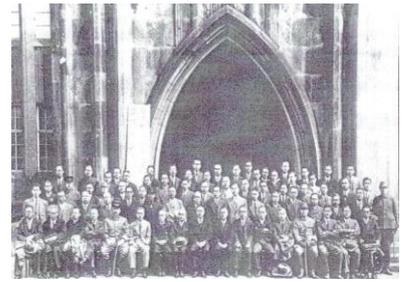
《プレ企画》 731部隊関連のDVD上映

DVDには、細菌兵器による被害者の実像と元隊員の生々しい証言が記録されていた。731部隊に送られ捕虜は「マルタ」と呼ばれ特別監獄（7棟、8棟）に隔離され、足も延ばせない「檻」に収容された。

731部隊は、マルタを人体実験/生体解剖して、感染力/殺傷能力の強い細菌を培養した。関東軍は、国際法違反の細菌戦で大量の中国人を無差別に殺戮。医師が軍医として積極的に作戦に関わっていた。

元731部隊の元隊員は、「生きた人体で菌を増やしていく」「死体だと菌の濃度が落ちる」「生体実験/解剖で12倍まで毒力を強めた」と証言。

広州8604部隊の元隊員は、「難民を始末するために細菌を空から蒔き村民の半数以上が死んだ」「珠江に毒を流した」「朝食のお湯の中にサルモネラ菌を入れた」と証言。2000人以上の難民がいた南石頭収容所では、1644部隊が「様々な毒物を使用して1日40～50の死体を運んだ」「瓶に入れたペスト蚤を蒔いた」「731部隊で大量生産したコレラ菌を井戸や河川に投げ込んだ」と証言。現地の被害者は「崇山村では空から散布され半数近い村民がペストで殺された」「感染した者は病気を治すといつて一か所に集め人体実験/解剖用に382人が殺害、村は焼き払われた」「村中が呻き声に包まれ水、水といつて1日20人が死んでいった」「江山では、餅やおむすびにコレラ菌が混入され、下痢、嘔吐で次々と死んでいった」と告発。731部隊の実験材料にされた人々の中には、住民や赤ん坊まで含まれていた。人体実験のために犠牲となった人は、3000名を超えているといわれている。



1942年（昭和17年）第11回日本医学会総会時の第9部微生物学分科会の東京大学安田講堂前での記念撮影

《藤井克徳氏の基調講演の内容紹介》

ナチス・T4作戦の障害者虐殺▷ターゲットは精神/知的障害者



藤井氏は講演の前段で、NHK制作「障害者と戦争」で「藤井克徳氏等のT4作戦現地視察」の様子を放映したVTRを紹介。

ナチスドイツは「障害者は金のかかる価値のない人間」として、ヒトラーが直接、医師宛に「T4作戦」を指示。医師に「生きる価値があるかどうか」の判定と抹殺の権限を与えた。藤井氏はハマダーの精神病院を視察。地下室には7畳ほどのガス室と焼却炉があり、バスで搬送されてきた精神障害者を1回の面接でシャワーを浴びせて裸でガス室へ誘導。一度に50人づつ、10分後に死体は焼却炉へ搬送。ハマダーで7万人、ドイツ国内だけで20万人が殺害。「価値なき命の抹殺」は野生化し、犠牲者は他国も含め50万～70万人ともいわれる。

「働けない者」「価値なき者」として、精神障害者・知的障害者がT4作戦の主要な対象となった。

「T4作戦は、ナチスと精神科医の合作」であった。医師は、ヒトラーの命令に留まらず、「人体実験/解剖ができる」と自主的、積極的に殺害に加担した。こうして精神障害者等は、ユダヤ人600万人大虐殺のリハーサルにされた。藤井氏は「断種政策」「ナチス以外の国々の優生政策」を紹介。特に日本での「やまゆり園事件」「座敷牢事件」「社会的入院や身体拘束」「旧優生保護法による強制不妊手術」を憲法や国連権利条約との対比で告発。現代の私たちに問われる問題として「史実と真実は違う」「史実の背景を直視し、そこから本質（真実）を明らかにする」「社会に働きかける」ことを呼び掛けました。

モデレーターを務めた精神科医の香山リカ氏は「人間の健康と生命の維持に係る医師として、731部隊やT4作戦、強制不妊手術等に医師が積極的に加担してきた史実は痛恨の極み」「昔話しにせず、今を生きる私たちの問題として積極的に関わっていきたい」と結びました。（文責：事務局/堀場）